

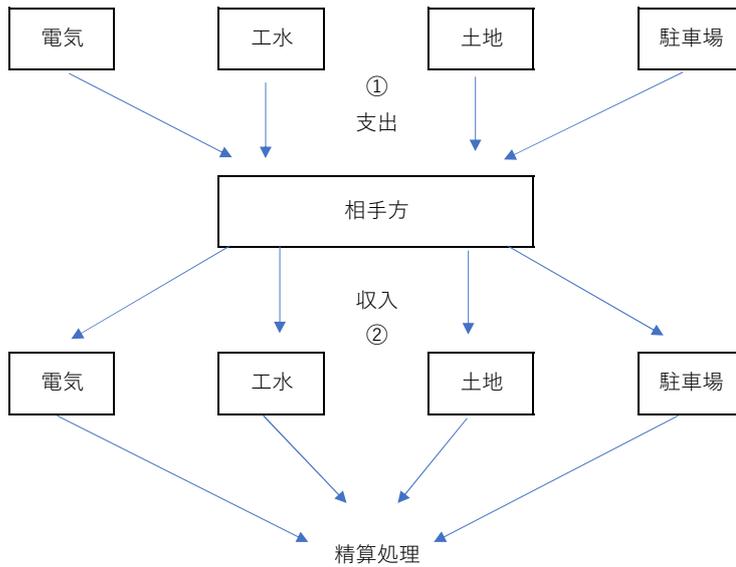
資料1 現行システムに関する課題

課題① 共通整理勘定業務における課題

徳島県企業局では、共通整理勘定の事務フローにおいて、以下に示す課題を抱えている。  
課題解決に向けた要望を踏まえ、本システムを使用することで以下の諸課題を解決し、共通整理勘定の入力業務、必要帳票の出力、入力内容の確認作業がより効率的に行える手法について提案すること。

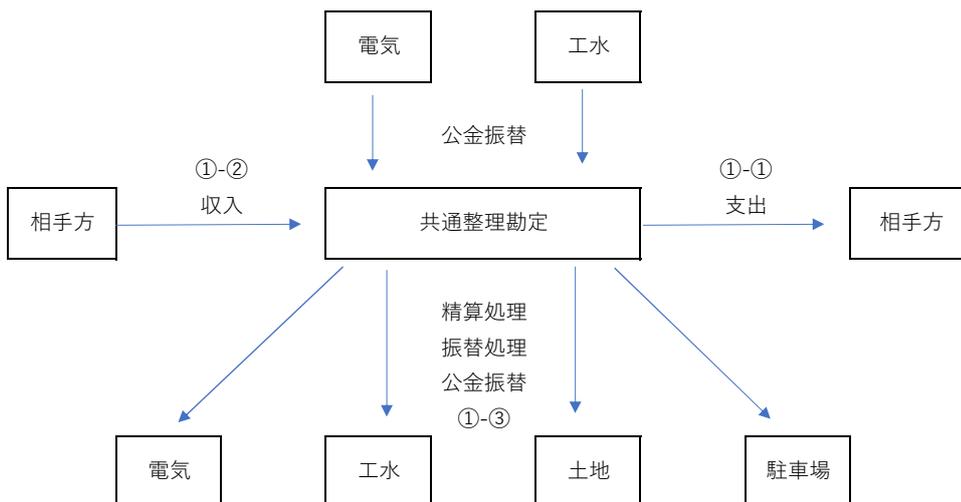
○事務の流れ

【電気事業会計、工業用水事業会計、土地造成事業会計、駐車場事業会計】



【共通整理勘定】

※各事業会計に共通する収入及び支出の執行について、期中に整理勘定（以下「共通整理勘定」という）を設けて取扱い、年度末に各事業会計間との間で精算をする手続きを定めている。



【課題①-①、①-②】

- ・電気事業会計、工業用水事業会計、土地造成事業会計、駐車場事業会計、共通整理勘定の5つの当座預金口座よりそれぞれ支出及び収入をしているため、振込等の手数料が余分にかかっている。

【課題①-③】

- ・年度末の精算処理として、各事業会計に対し、期中に共通整理勘定で執行した額を各事業会計に還付し、会計別整理に基づいて執行額を各科目に振替しているが、資料作成及び確認作業に膨大な時間を要するうえに非常に限られた時間での作業をすることとなる。
- ・入力作業の量が膨大であるため、入力・転記ミスが発生する。

【課題解決に向けた要望（徳島県イメージ）】

- ・新たに代表口座を設けて、一つの口座から支出し、振込等にかかる手数料の減少
- ※電気事業会計、工業用水事業会計、土地造成事業会計、駐車場事業会計、代表口座の5つ
- ・収入は、電気事業会計、工業用水事業会計、土地造成事業会計、駐車場事業会計への入金処理
  - ・現在、年度末に行っている共通整理勘定の精算作業を不要とすること
  - ・精算処理における資料作成と入力作業の簡素化
  - ・会計事務の効率化と確認作業の軽減
- 

課題② シミュレーション機能

徳島県企業局では将来の収支計画や減価償却費のシミュレーションについて、現行では職員がエクセルファイルにて手入力にて算出、管理をしている。そこで以下の課題が挙げられる。

- ・複雑な作業も多数あることから職員の負担がかかっており一部のシステム化が求められる。
- ・健全な経営の維持に向けて将来の経営に関する指標についての適格な算定が求められる。

【課題解決に向けた要望（徳島県イメージ）】

- ・予算編成システム等を活用し、将来の収支計画を作成することができる。
- ・固定資産管理機能より将来の減価償却費のシミュレーションができる。
- ・その他、今後の経営計画の策定に際し、本システムにて活用できる機能提案を通じて課題解決につなげたい。